

# The Japan Dickens Fellowship

## NEWSLETTER Fall 2010

Office of Professor Eiichi Hara  
Department of Literature and Culture in English  
Tokyo Woman's Christian University  
2-6-1 Zenpukuji, Suginami-ku, Tokyo 167-8585  
<http://www.dickens.jp>



2010年11月30日

### 2010年秋季総会報告 Annual General Meeting 2010 at Tokyo Woman's Christian University

2010年度の秋季総会は10月23日（土）、東京女子大学（東京都杉並区善福寺）にて開催されました。参加者は約50名。今回行われた4件の研究発表はいずれも若手の方々によるもので、そのうち大学院博士課程前期（マスター）の方が2名という、大変清新な顔ぶれでした。しかも、いずれ劣らぬレベルの高いものばかり。生气あふれる発表に刺激されたフロアの反応も活発。日本支部の未来を明るく照らすものだったと言えます。

日本支部長 原 英一



### 2010年度秋季総会 Annual General Meeting 2010

(1) 2010年度会計報告（2009年10月1日～2010年9月30日）

中村財務理事から次の通り詳細な報告があり、これについて植木監事から会計監査の報告がありました。審議の結果、承認されました。

#### ○収入の部

収入名目	金額	備考
前年度繰越金	1,778,832 円	
会費	1,162,000 円	①一般会員 137 名分：(8,000 円×137 名 = 1,096,000 円) ②院生会員 8 名分：6,000 円×8 = 48,000 円 ③滞納分と不足分（2 名） = 10,000 円 ④二重の支払い（1 名） = 8,000 円 <sup>⑤</sup> 計 = ① + ② + ③ + ④ = 1,167,000 円
印税	77,400 円	『ディケンズ鑑賞大事典』の印税
預金利子	108 円	みずほ銀行の預金分の利子
合計 (A)	3,018,340 円	

⑤余分な分は、2011年度会費として、前払いの形で受け取った。

※なお、09年度の会費未納者は、11名（156名中）

#### ○支出の部

支出名目	金額	備考
ロンドン本部へ	311,617 円	4,359 円（ロンドン本部への年会費） + 307,258 円（The Dickensian 購読料）
年報印刷費（32号）	258,720 円	
特別講演の講師への交通費、滞在費、懇親会費の支払い	67,000 円	秋季総会：萩野昌利氏 春季大会：富山太佳夫氏
学生アルバイト代、アルバイト学生の懇親会費の支払い	139,000 円	2010年度秋季総会と春季大会
郵送通信費（振込手数料含む）	107,120 円	秋季総会・春季大会プログラム発送費、年報発送費、The Dickensian 発送費、振込手数料、等を含む

理事会弁当代、秋季総会・春季大会の茶菓代	38,997 円	
ソフト代、機材更新費等	106,170 円	①DTP ソフト 29,000 円、②ビデオ機代 74,340 円、③ビデオテープ代 2,830 円
合計 (B)	1,028,624 円	

◎収支決算（次年度への繰越金）：合計 (A) 3,018,340 円－合計 (B) 1,028,624 円 = 1,989,716 円

2010 年度会計を以上の通り報告いたします。

2010 年 10 月 23 日

理事（財務担当） 中村隆

上記の通り相違ありません。

監事 植木研介

## (2) ウェブサイトの移行

現在、日本支部のウェブサイトが置かれている国立情報学研究所（NII）から諸学会へのウェブ・サービスについて、来年度をもって終了するとの通知がありました。そのためサイトをどこかに引っ越さなければなりません。これについては支部長とネット担当の松岡光治氏とで具体案を検討させていただくことになりました。（新ウェブサイトについては別記をご覧ください。）

## (3) 外国人研究者の招聘

理事会では2012年のディケンズ生誕200年記念行事の一環として、著名な研究者を招聘することを決定し、カリフォルニア大学のCatherine Gallagher氏に交渉しましたが、受諾の回答が得られました。これについて総会の承認を得ました。

なお、来年の春季大会、秋季総会にも外国人研究者を招聘したいと思いますので、一般会員の皆様からご推薦をお願いします。（その後決定した招聘者については別記をご覧ください。）

## (4) 来年度の春季大会開催場所

溝口薫氏のご協力により、神戸女学院大学で開催されることが決まりました。開催日は6月4日（土）を予定しています。

## 研究発表 Papers

### 第 I 部

司 会 松本靖彦 (東京理科大学)



### *A Christmas Carol* における「光」と「闇」 —Phantasmagoric illusion による「光」への誘導

福島佳子 (関西学院大学大学院博士課程前期)



福島氏の発表は、『クリスマス・キャロル』の語りの手法が、当時斬新な娯楽として注目されていた Phantasmagoria に依拠していることを検証したものでした。「光」と「闇」という一見陳腐な、しかし非常に効果的な対照法は、phantasmagoria という新技術のインパクトをディケンズが巧妙に語りに組み入れた結果でした。イメージ資料を効果的に提示しながらのプレゼンテーションにより、この作品の映像的效果が鮮やかに浮かび上がりました。

### ディケンズ作品における中国

若澤佑典 (東京大学大学院博士課程前期)



若澤氏はディケンズの小説に「中国」がどのように現れているかを論じました。『ドンビー』、『リトル・ドリット』、『エドウィン・ドルード』における「中国」表象の変遷を丹念にたどり、不可視で不在の「中国」が一つの現実として顕在化してくる様を明らか

にしました。「オーストラリア」と比べると、ほとんど論じられてこなかった「中国」に焦点をあてた斬新な発表でした。



## 第Ⅱ部

司 会 玉井史絵 (同志社大学)

### ディケンズとラスキン—風景が意味するもの

木島菜菜子 (京都大学大学院博士課程後期)



このしま 木島氏は、ラスキンがディケンズのすぐれた描写として挙げている三つの箇所—ステイアフォースの難破、ジョナス・チャズルウィットによるティッグ殺害直前の日没、カーカーのデジョンからの逃走—を詳細に分析し、ディケンズの「風景」描写が意味するところを「ピクチャレスク」概念を通して分析しました。ディケンズとラスキンの美学の交差に鋭く切り込む、知的刺激に満ちていました。

## Soyer's Symposium

小宮彩加 (明治大学准教授)

“Soyer's Universal Symposium of All Nations” は、ロンドン万国博覧会に合わせてオープンした巨大レストランでした。小宮氏は、このレストランを作ったAlexis Soyerの来歴と、まるでテーマ・パークのようなその概観と内部を詳細に紹介しました。豊富な画像を提示しながら、このレストランのコンセプトがきわめて革新的なものであったことを立証し、それが短命に終わったのは、あまりに時代に先んじていたがためであったことを示されました。聴衆にとっては1851年にタイムスリップしたかのような、楽しくまたスリリングな経験でした。



研究発表ではフロアからの発言が相次ぎ、活発な質疑応答となりました。



## 懇 親 会 Evening party



総会終了後は、タクシーに分乗して吉祥寺第一ホテルに移動。40名で懇親会が行われ、楽しい食事と歓談の一時を過ごしました。

二次会は第一ホテル裏の居酒屋「藏」。16名が参加し、大いに盛り

上がり、ふと気づくと11時を過ぎていました。

昨年と同じパターンで、二次会から参加の原田範行氏 (東京女子大学) に率いられ、常連ハードコアの皆さんは吉祥寺の何処かでの三次会へと流れていったようです。





## 諸 報 告 News and Notices

### (1) 日本支部ウェブサイトが移転 The new web site of the Japan Branch

総会で報告の通り、日本支部のウェブサイトは移転することになり、民間のサービス・プロバイダーと契約しました。新しいURLは<http://www.dickens.jp>です。The National Institute of Informatics (NII) is going to discontinue its free Internet services for academic societies shortly. The Japan Branch web site has moved to a new address: <http://www.dickens.jp>

### (2) *The Dickensian*購読料の改定 Increase of subscription rates for *The Dickensian*

ロンドン本部のCouncil Meetingにおいて*The Dickensian*購読料の改定が決定されました。送料・印刷費等のコスト上昇に対処するため、4年ぶりの値上げとなります。新しい購読料はフェロウシップ支部会員の場合15ポンドです。日本支部は165名分（2010年末会員実数160名+予備）として、£2,475（約333,000円）を納入しました。総会での会計報告にありますように、日本支部の財政は黒字増大を続けており、さらに円高ポンド安の状況もありますので、当面支部会費の値上げなどは不要と思われます。The subscription rates for *The Dickensian* have been increased for the first time in four years. The decision was taken by the Dickens Fellowship Council against a background of rising postage and production costs. The new subscription rate for a Branch member is £15.

### (3) Dr. John Drew invited as a special guest lecturer to the Annual Spring Conference of the Japan Branch 2011

総会での決定に基づき、理事会で協議の結果、2011年春季大会への招聘研究者は全支部会員の投票により決定することとなりました。メーリングリストを通じての投票の結果、John Drew氏が最大の支持を集めました。佐々木副支部長によりDrew氏と交渉していただき、同氏から快諾を得ました。

### (4) 佐藤昇氏によるディケンズ作品朗読 A reading of 'Doctor Marigold' by a professional actor

梅宮創造氏のお世話により、2011年春季大会で佐藤昇氏（俳優）による「ドクター・マリゴールド」（梅宮氏訳）の朗読が行われることになりました。久々のフェロウシップらしい企画です。どうぞお楽しみに。

### (5) 『年報』第33号の刊行および会費の納入について Annual Bulletin No. 33 and membership dues

今回もまた『年報』第33号の刊行が遅れておりまして、誠に申し訳ありません。3月初旬には皆様のお手元に届く予定です。新年度の会費については、『年報』に郵便振替用紙を同封いたしますので、それによりご納入くださるようお願いいたします。一般会員8,000円、学生・院生会員6,000円です。A postal transfer slip will be enclosed in the forthcoming number of the *Bulletin* for remitting annual membership dues (8,000 yen for regular membership or 6,000 yen for student membership).

### (6) ディケンズ生誕 200 年記念論文集原稿募集（既報） Dickens Bicentennial Essays [A reminder]

原稿の締め切りは2011年9月30日です。The closing date for manuscripts intended for publication in the collection of essays commemorating the Bicentenary of Dickens's birth to be published by the Japan Branch is September 30, 2011.

### 2011 年度春季大会予告および研究発表募集 Annual Spring Conference 2011

#### The Japan Branch Annual Spring Conference will be held at Kobe College on June 4, 2011.

2011年度春季大会は、溝口薫氏のお世話により、6月4日（土）に神戸女学院大学で開催されます。大会のプログラムについては、上記John Drew氏の特別講演、佐藤昇氏による朗読が行われることが決まっています。そのため、研究発表については1～2件のみしか時間枠がありません。下記の通り募集しますが、この点をどうぞご理解ください。

#### 研究発表募集 Call for papers

研究発表を募集します。応募する方は、以下を支部長まで電子メールで提出してください。締め切りは2011年4月10日です。An application for a paper to be presented at the Conference should be sent by e-mail to the Branch secretary by April 10, 2011. It should include a proposed title and an abstract of about 1,000 words as well as a brief summary of 200 to 300 words.

\* 発表タイトル \* 発表要旨 日本語で400字程度、英語の場合は200～300語程度（プログラム掲載用） \* 発表内容 日本語で1,200～2,000字程度、英語の場合は1,000語程度（審査用）

ディケンズ・フェロウシップ日本支部事務局

〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1

東京女子大学 現代教養学部 英語文学文化専攻 原英一研究室

電子メール: [hara12cdfj48@ktb.biglobe.ne.jp](mailto:hara12cdfj48@ktb.biglobe.ne.jp) 電話: 03-5382-6348 (原支部長直通)